

30.4.4 校内研修会

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

研究主題

誰もが学ぶ喜びと自信が持てる、
主体的・対話的で深い学びの創造

～算数科 特別の教科道徳を中心に～



本郷小学校

基本方針

○三原教育「新たな挑戦（NCC）」

道徳教育の充実

「特別の教科 道徳」の実施に係り、指導力の向上、教材教具の蓄積、評価方法の研究等の実践を行い、道徳教育の充実を図る。



そこで

昨年度までの実践をふまえ、「考え、議論する道徳」への質的転換を図っていき、児童の道徳性を高めていく。

新たな挑戦として取り入れるしくみ

○「特別の教科 道徳」の指導方法の推進

- ・市町挑戦加配とのTTによる教材研究, 指導法研究
- ・授業研究による「考え議論する道徳」の検証

○「特別の教科 道徳」の評価方法の推進

- ・評価に関わる研修の実施
- ・毎時間の児童・教職員の授業評価の研究

○本郷中学校区の道徳教育の推進

- ・市町挑戦加配によるTTでの授業指導, 教材・指導法研修

○自分に対する自信を高める道徳教育のあり方

- ・小中合同による地域奉仕作業の実施
- ・主体的な児童会活動による自己肯定感・自己有用感の育成
と体験を活かした道徳科の実践

とらえ (解説「特別の教科 道徳編」を根拠に)

誰もが学ぶ喜びと自信が持てる、主体的・対話的で深い学びの創造

発達の段階に応じ、
答えが一つでない道
徳的な課題を一人
一人の児童が自分
自身の問題としてと
らえ、向き合う。

自己の生き方を考
え、主体的な判断
の下に行動し、自
立した一人の人間
として他者と共によ
りよく生きる。

とらえ (解説「特別の教科 道徳編」を根拠に)

誰もが学ぶ喜びと自信が持てる、主体的・対話的で
深い学びの創造

- 導入時に道徳的問題にふれ、課題意識をもつ。
 - ・考えてみたい。切実な課題
- 自分自身との関わりでとらえ、考える。
 - ・共通体験や日常生活の想起、活用
- 新たな学びの自覚
 - ・自分自身の変容の確認、これからの生き方への希望や課題

とらえ (解説「特別の教科 道徳編」を根拠に)

誰もが学ぶ喜びと自信が持てる, 主体的・対話的で
深い学びの創造

○協働し, 対話する学び

- ・学習形態, 話し合いのルール 児童相互, 教師, 教材との対話

○多面的・多角的に考える

- ・見る立場を変えたり, 多くの人の見方を生かす。
- ・自己の考え方の主張や生き方の選択肢について

とらえ (解説「特別の教科 道徳編」を根拠に)

誰もが学ぶ喜びと自信が持てる、主体的・対話的で
深い学びの創造

- 学習指導過程，指導方法を柔軟に発想する。
 - ・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
 - ・問題解決的な学習
 - ・道徳的行為に関する体験的な学習 等
- 新たな気づきや変容がある。
 - ・伸ばしたい自己を深く見つめる。

まとめてみると

主体的な学び

児童が真剣に考える



対話的な学び

児童が共に語り合う、
語りたくなる。



深い学び

教師が指導の明確な
意図をもつ



導入 少し具体的に

ねらいとする価値に関する「それまでの自分」を全ての児童に感じさせる

- ・共通にわかる具体物の提示
- ・個人差があっても当然。体験をもとにした語り合い



ねらいとする価値に対して、
今からの話し合いへの期待
やイメージをもつ

考えてみたいな

展開前段①

少し具体的に

「教材の世界」に，全ての児童が浸れるようにする。

- ・教材の語りを大切に（手元にあるが・・・）
- ・全提示 分割提示等，ねらいや内容を考えて工夫する。
- ・視聴覚や音楽等の工夫



「何を伝えるか」でなく
「何を考えさせるか」

その人の気持ちになって言いたくなる雰囲気

展開前段② 少し具体的に

ひとりひとりの心のことばを学び合うようにしていく

- ・共感的に受け止め、学びの素材にしていく。
- ・間違った答えはないという安心感

もっと詳しく知りたい

あっ。そうわかる気がしてきた。

うなづき 新鮮さへの感動など発言者をはげます姿勢

なるほど。そういう考えか

はっとした。わかる気がする。

室内全体を学びの場に



展開前段③

少し具体的に

子どもの発言の中にある思いをうけとめ、
広げていこう

- ・子どもたちが「えっ」と考えこむ瞬間
- ・子どもの意見が状況や行動だけなら、切り返しをする。

この意見。わかる気がする。

みんなの意見を聞いて
思ったんだけど

わたしも…です。
例えば…

わたしは気がつかなかったけど、
〇さんの意見を聞いて…

みんなで新たな価値観をみつけていく時間にする

子どもの言葉の奥にあるものを見ていこう



展開後段 少し具体的に

改めて自分や自分を取り巻く世界を見る

- ・自分の生活する場面で、新しいとらえができたこと。
- ・「今の気付き 同感の人」と広げる。
- ・反省事項であればその気付き，やる気を喜び合う。



新たな自分を見つけたり，新しいとらえを見つけることができたなかまを確かめあう

新しいとらえ方ができた自分や仲間の姿を喜び合う

終末 少し具体的に

1時間の学びを喜び合うに足る、まとめや確認になるように

- ・教師の語り 説話
- ・地域の人々の声，児童が憧れる人の言葉，感動を新たに作る詩や絵。
- ・道徳ノートを活用



内面から出てきた新たな発見を余韻をもって感じ、1時間をとじる。

有意義な時間であったな

研修方法

日々の授業

基本。前日に
学年で時間を
ください！

- 教材を吟味する
- 学習指導過程を構想する
 - ①教材での話し合いの中心発問や中心テーマをどうするか？
「考え 議論する道徳」への質的転換をめざして柔軟に発想
 - ②問題意識をもたせるための授業全体への導入をどうするか？
♡の課題を多様に発想する。
 - ③問題追及の流れをどう描くか？
 - ④自分たちの問題を考える発問をどうする？（置かない場合もある）
 - ⑤終末におけるまとめ方をどうするか

評価は後で提案

日々の実践
の積み重ね

研修方法

研究授業

○前述の①②を討議の柱にすえ、授業提案(年間5回)を行い、全教職員で協議する。

授業評価表(教職員)

授業評価表(児童)

○記入し(後日提案)その差を比較・分析し、今後の課題を提示する。

評価研修

4月 評価の基本方針 年間の評価について

7月 評価の実践的研修

12月 評価の実践的研修

では少しだけ研修

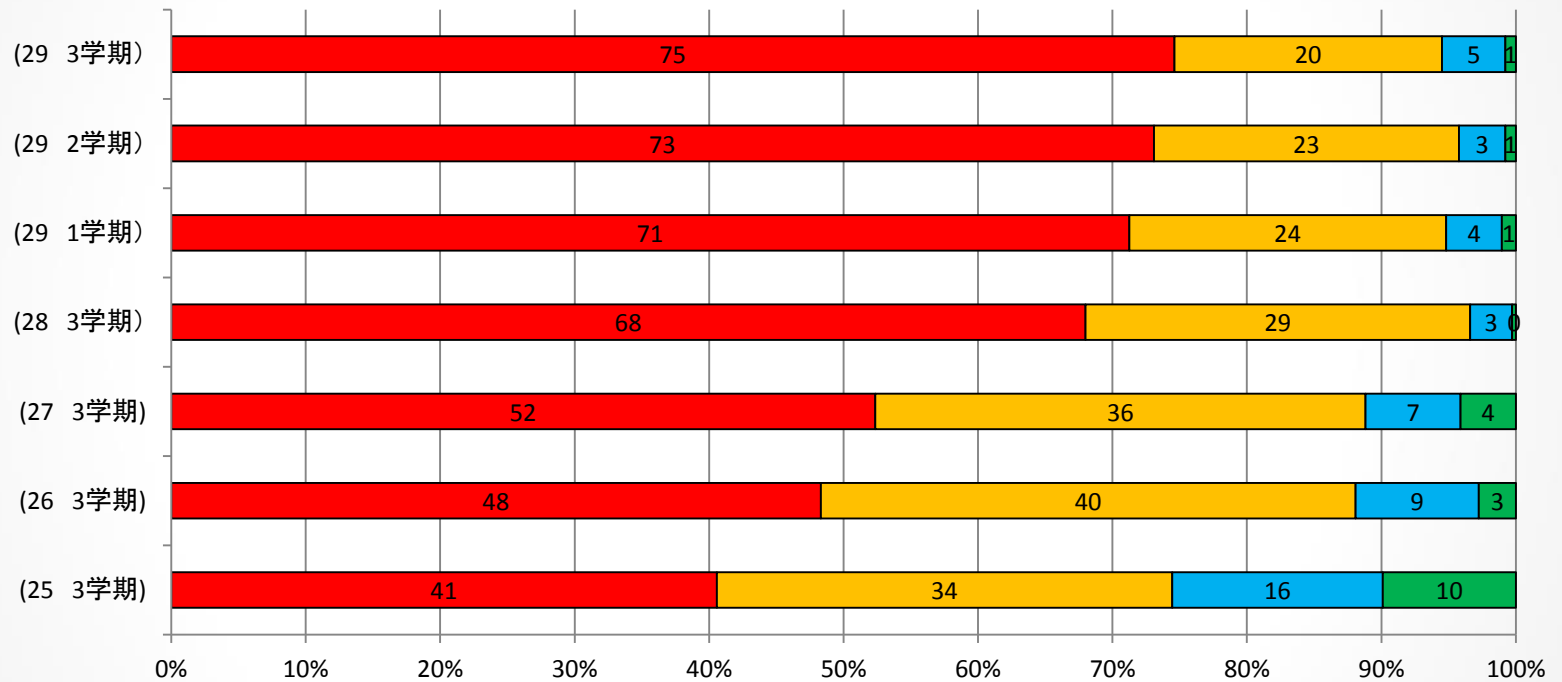
学 年 6年

教材名 「手品師」

主題名 明るく生きる

ねらい どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

道徳の時間は楽しいと思います



1時間 1時間を大切に

どうとく じかん
道徳の時間は



そのわけは、

いつも、なるほど〇と新しい発見があり
それで「学んだ」ことを生かしてとんとん自分
もそうしてみようなどと思っ人かうれしく
なるようなことをし、とんとん自分の心も
あたたかくなるから心の中に〇をかきました。

開発的な発想で